腸管出血性大腸菌感染症（O157など）に気をつけましょう

問保健所保健予防課　☎428－1152

◆強い毒素を持つ腸管出血性大腸菌

O26、O121、O157などの腸管出血性大腸菌は、腹痛・下痢・血便の原因となる強い毒素（ベロ毒素）を腸管内でつくることがあります。

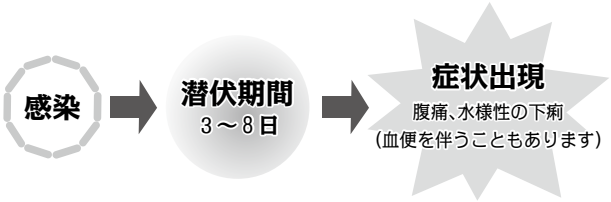
症状の程度は人によりさまざまですが、患者の６～７％が、溶血性尿毒症症候群や脳症（けいれんや意識障害）などの重症合併症を起こし、時には死亡することもあります。

◆抵抗力の弱い子どもや高齢者は特に注意

抵抗力の弱い子どもや高齢者は、溶血性尿毒症症候群になる割合が高く、特に注意が必要です。強い腹痛・下痢・発熱や吐き気などの症状がある場合は、早めに医療機関にかかりましょう。

また、下痢の時はスポーツドリンクなどで水分補給して脱水症状を防ぎ、自己判断で下痢止めなどの市販薬を飲まないようにしましょう。

◆感染してから症状が出るまで



◆予防しよう 腸管出血性大腸菌感染症

加熱不足や生の食肉・レバー、二次汚染した食品、菌がついた手などが感染の主な原因です。次のことに気をつけましょう。

注意するポイント

肉の生食は避け、完全に火を通す

- 中心部まで十分に火を通しましょう。

※腸管出血性大腸菌は熱に弱く、75℃以上で１分間加熱すると死滅します。

※生肉を扱った箸と食べる箸は使い分けましょう。

食器・調理器具はいつも清潔に

- 洗剤で十分に洗い、漂白剤や熱湯で消毒しましょう。
- 包丁やまな板は、肉・魚用と野菜用を使い分けましょう。

しっかり手を洗いましょう

- 調理・食事の前やトイレの後は、せっけんと流水でしっかり手を洗いましょう。
- 生肉を扱った手指は、他の食材や器具に触る前にしっかり洗いましょう。

腸管出血性大腸菌感染症発生状況

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
富山県	25人	47人	32人	26人	31人
うち富山市	13人	37人	13人	11人	14人

救急医療を守るため、一人一人のご協力をお願いします

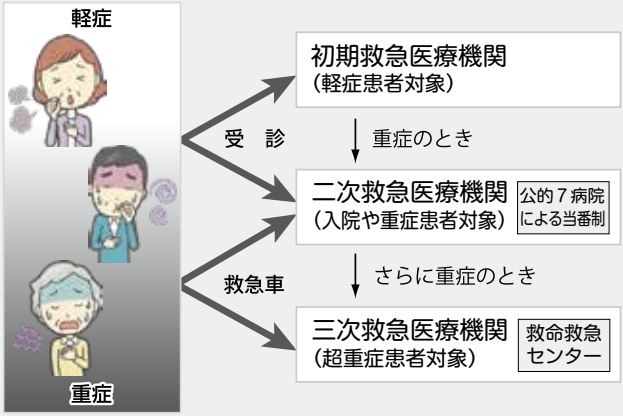
問富山市・医師会急患センター（夜間・休日）　☎425－9999
問福祉政策課　☎443－2164

症状に応じた医療機関での受診をお願いします

急な病気やけがなどに迅速・的確に対処するため、症状に応じて初期・二次・三次と、各医療機関が役割分担して、救急医療体制を整えています。

しかし、かぜ、軽度の腹痛などの入院を必要としない病気や、ちょっとしたけがでも二次救急医療機関で受診されるケースが増えており、重症の方の治療に支障が出ています。

軽症と思われる方は、初期救急医療機関の富山市・医師会急患センター（市民病院第１駐車場内：今泉北部町）や地域の当番医療機関を受診してください。



受診する際のお願い

- かかりつけ医をもちましょう
- なるべく通常の医療機関で、診察時間内に受診しましょう
- 夜間・休日に急病で受診するときは、富山市・医師会急患センターや地域の当番医療機関で受診しましょう
- 救急車の安易な利用は避けましょう

夜間・休日の当番医療機関については「とやま医療情報ガイド」を活用してください

とやま医療情報ガイド（http://www.qq.pref.toyama.jp）に、県内の夜間・休日に受診できる救急病院や診療所などを掲載しています。